

アート・サポート・センター 神戸 第223回火曜サロン 2011年4月5日(火)18:30start

「私たちができる激震災害への文化的な貢献は何か？」

まず、島田より配布物の説明。始まっているチャリティコンサートの案内を含む。(別紙サロンレジメを参照)

チャリティコンサートの寄付について

- ① チケット代を全額寄付
- ② チケット代の一部を寄付 (いつまでも全額チャリティは難しい、何かしたいといった場合に継続しやすい形)
- ③ 共同で寄付つきチケットを販売し、販売数に応じて寄付先を選べる(ぼたんの会方式)

参加者より発言

● 中村よおさん(シンガー、ラジオパーソナリティ)
レジメ3ページめ参照、3月23日のコンサートの報告。
40組の関西在住のミュージシャンが集まる。チケット代全額寄付。

● 森本アリさん(グッゲンハイム邸管理、ミュージシャン)
レジメ3P参照、3月17日の会の報告。114人の参加者。
考えているより、動いた方が良かった。チケット代について、安くして多くの人に来てもらった方が良い。
周辺に被災された方がおられた。予定していた結婚パーティの中止になり、仙台から避難されて来られた方が多くおられ、相談を受け、会の開催となる。4月8日にグッゲンハイム邸にて仙台フィル、チャリティコンサートを開催予定。今後も入ってくる企画を受けとめて動いていきたい。

— 島田

アーティストの活動を現地がどう受け止めていくのか。
チャリティイベント以外で何か考えられていることはないか。

● 米川綾子さん(子ども文化振興協会)
人形劇団の方と一緒に、子供たちが遊べるものを大量に作って、現地に届けることができないだろうかということで、スポンジで犬とはらぺこ芋虫を作ろうということになる。先日、呼びかけ、一日で60人ぐらいの方が集まる。学生も含む。募金を集めて、現地の様子を見て、今後、人形劇を現地で開催し、子供たちの日常を回復してほしいと考えている。

— 島田

地元のニーズとどうマッチングしていくか。その方法をさぐる。レジメ4P ④⑥参照

● 大谷燮さん(ダンスボックス)
鳥の劇場での全国フォーラム テーマを変えて開催。賞のお祝い レジメ4P ⑧参照 の話しの中で震災が起こり、何かしたいというアーティストの声が入ってくる。
ダンスボックスの国際交流基金・地球市民賞の受賞報告会とともに、DANCE LIVE in KOBEを開催することになる。
(4月16日*入場料1500円と当日ドリンク料、募金を寄付する)
関西在住のアーティストに声がけして東京/パリも含め46組の出演者が集まる。

寄付の売り上げは、リンクしているネットワークへ。継続の方法を考えながら、#1として、第一回目を始める。
大谷さんも参加している下記団体やネットワークのお話し。

- ・アートNPOリンク アートNPOエイド・・・支援の方法について考えている。
- ・アートボランティアネットワーク 舞台芸術の関係者 平田オリザさん主催「現場は何を求めているのか？」

● 齊藤光国さん(灘区民ホール)

17年前神戸の震災時のことを振り返る。被災地のホールは現在避難所になっている。
齊藤さんは、震災の翌年、震災対策技術展という見本市を開催。いまだに続いている。
灘区民ホールのロビーはいつでも使えるようにしようと考えている。神戸大学のアーチという団体、今月から毎月、子供向けのイベントをチャリティで開催。ホールとしてできることをやっていく。何らかの形で支援の気持ちで随時対応していく。

— 島田

文化支援は、長いスパンで取り組みを考える。永続的にどう支援していけるだろうか。仕組みとか装置をどう作るか。
公益財団法人「神戸文化支援基金」の取り組みや「アート・エイド・東北」について。

● 実吉さん、八十さん（市民活動センター神戸）

公益財団法人「神戸文化支援基金」の設立の事務局。財団設立についてニーズに対応する。
認定NPO法人の認定講座は開催。条件をクリアすれば可能。独自にやるのは大変なので、市民活動センター神戸がアドバイスやサポートしてくれる。組織が増えると、それぞれ寄付の行き場所が分かれる。寄付の真価が問われる。

・公益財団法人「神戸文化支援基金」の案内チラシ記載内容について

寄付をした場合の、税額控除が実現まで、まだ時間がかかる。(まだ現在制度が整っていない)
3月15日に公益財団設立の作業が終了したが、一週間ずれていたらどうなっていたかわからない。
ピンクのチラシ 認定NPO法人では税額控除が昨年10月に可能になる。寄付の文化の仕組みづくり。そのはじまりが震災への寄付になるということは思わなかった。
NPO・NGOの1600の組織うち、災害救援の組織は少ない。あとは地域の活動にゆだねられている。
何かしたいという気持ちをコーディネートして、現地の活動につなげる。

先週末に被災地に入って見てきたこと。

- ・ 現地について
山形から仙台へ。荒浜を見る。現地へ行ってショックを受ける。テレビに流れている映像を現実に見る。
2日め、石巻へ。関係者が被災。街は壊滅状態。
全体のコーディネートや、細かな支援の伝達が必要と感じる。
午後、福島市、宮城よりもっと深刻。外からの支援が少ない。皆無。原発事故で、動きがとれない。支援物資が届かない。
支援者とのつなぎ手がいない。支援が福島を素通りしていく。兵庫から福島へ応援したい。
これからは、長期で滞在するのは難しいかもしれないが、一週間から二週間、行ける期間で訪問を考えている。

— 島田

社会福祉系団体は、現地に入って考える。長期滞在でなくても、現地を見て、できることから動き始めている。

● 中島淳さん(神戸芝居カーニバル)

神戸の震災後、文化活動をする場合、ほとんどがチャリティだった。イツセー尾形さんの公演、普段 4000 円のところ、2000 円で開催。全額寄付された。日本(大阪)センチュリー 仙台フィルを応援するカンパを募っている。
被災地のアーティストを、こちらに招くという方向を追求していけないかなと考えている。

一 島田 4p レジメ ③ 参照

チャリティ美術展 今年の8月にギャラリー島田で開催予定。レジメ3p下に記載。200万を超える資金を目標としている。

● 出本さん (サウンド・アイ)

世良美術館で 世界の伝統音楽のミュージシャンを招いてコンサートを開催。ニュースより、被災地の言葉に逆に勇気づけられている。日本全体を元気になることで、被災地も元気づけられる。決して萎縮しないでほしい、という声。元気で楽しむため活動を再開したい。300人の会員向けに配布の資料。震災前に決まった公演を開催。大阪室内楽フェスタを開催。世界からアーティストが集まる。みなさん楽しんでいただきたい。

● 小野村さん (神戸大学アートマネジメント研究会)

レジメ3p 5月7日 チャリティコンサートを開催。チラシを参照。300席 満席で60万の寄付を予定

● 坪谷令子さん (画家)

配布物あり。「いのちは競わせるものではなく、いのちは慈しみ合うものだ」子供が遊ぶため、必要なものをホームページで告知。「子どもの笑顔元気プロジェクト」を周りに知っていただきたいとのこと。詳しくは <http://kikaku-blog-p-kai.com/> ホームページを是非見てください。

● 森下さん、柴崎さん (奈良 財団法人たんぼぼの家)

障害者の支援を通して社会とのかかわりをさぐる。仙台出身の柴崎さん、仙台へ入る 31日に戻る。家族を通して、友人知人が多く亡くなる。

ライフラインが復旧するまでの、支援をしてこられた。

たんぼぼの家としては、

「遠いところ、弱いところ、小さいところ」というキーワードを立ち上げて関わりを考える。現地に入り、石巻の障害者施設の支援にあたりたい。

被災地以外の障害のある人たちが、被災地の障害のある人たちを支援する。チャリティ美術展を企画し、おいしい食べ物、楽しい気持ちになる雑貨など、元気な経済活動を通して、現地の活動再建に役立ててもらいたいと考えている。

● 中川真さん (大阪市立大学)

インドネシアの震災 2006年 ジョグジャカルタ でガムランエイドを立ち上げ、遠隔支援をはじめ。現地で信頼できるパートナーを作ることがとても大切。日本で、我々は忘れていない、というイベントを開催。現地でも報道される。

・ 長期支援について

インフラは立ち直ってくる、その後、もう支援はいらないという、支援する/される、という立場関係をやめましょうという話になる。様々な社会問題に取り組む活動にシフトチェンジしていている。音楽を通してクリエイティビティを被災地の子どもたちと一緒に活動。

東南アジアは自然災害が多い。次の災害に向けて、自分達で解決していくためのクリエイティビティを、そういう能力を形成するような活動を求められる。

・ 今回の震災について

生活の復興は、文化の復興とつながっている。東北地方の豊かな芸能、自然と向き合う祈り、がなくならないように。

盛岡大学と連携して活動を考える。

● 中川博志さん (バーンスリー奏者、ミュージシャン アクト神戸(2002年に終了))

神戸の震災後マルセイユで アクト神戸のチャリティイベント。

その一人が神戸に来て、何かしたいと神戸市役所に伝えるが断られる。それがめぐるって、一緒に活動が開催されることとなる。フランス人からのキーワード … 連帯、創造、こわれやすさ。アクト神戸フランス と アクト神戸 日本が 連携して活動。

・経験でわかったこと

社会的な大きな影響でなくて、個人的な影響、個人の「つながり」が生まれる。

つながりが生まれることが大事だと思う。長いスパンで友情が築ける関係性を作ることを考えていきたい。

— 島田 神戸市の活動助成について

レジメ4p ⑨ 参照

● 藤田かよさん(モダンダンス)

3月11日以降、被災地のことを考えながら、踊りを通して何かできないかと常に思っている。テレマンの12の幻想曲を作り、公演を開催して寄付金を募ることを考えている。バロックの音楽は、震災と関係ないようにも思うけれど、一日一日空を見上げて被災地のことを考えながら取り組みを続ける。

— 島田

レジメ4p ①竹下景子さんの詩の朗読コンサートを東北につなげていきたい。心に作用する企画を進めていきたい。

● 奥村さん (多可町ヴェルディホールの元館長)

・ ホールとしての震災支援。

神戸の震災後、活動場所を失った被災された芸術家、ミュージシャンを受け入れる。忘れないように、という気持ちで駐車場で炊き出しを行う。集まった募金をアートエイド神戸に寄付。地域の人に忘れてもらわないために、実行委員会を組織し、人を集めて、支援の大切さを訴え伝えていく。何かできることがあれば協力していきたい。

—メールアドレスを登録していただければ、情報をお送りします。

アイデア、ご意見をお寄せ下さい。

21:00 頃終了